【演題名】

平戸度島スタディ (MGD 検診): 脂肪酸・ビタミン D 摂取とマイボーム腺機能不全との関係

(40/40 文字)

【ショートタイトル演題名】

脂肪酸・Vit D 摂取と MGD (14/15 文字)

【英文タイトル】

Takushima Study: Relation of Dietary Fatty Acids and Vitamin D to MGD

(69/80 文字)

【演者】

○福岡詩麻¹⁾³⁾、溝口尚則²⁾⁴⁾、川島素子²⁾⁵⁾、高静花²⁾⁶⁾、白川理香²⁾³⁾、鈴木崇²⁾⁷⁾、
児林聡美⁸⁾、佐々木敏⁸⁾、森重直行²⁾⁹⁾、有田玲子²⁾¹⁰⁾

1) 大宮はまだ眼科西口分院 2) LIME 研究会、3)東京大 4)溝口眼科
5)慶應大 6)大阪大 7) 東邦大大森 8) 東京大社会予防疫学
9)大島眼科病院 10)伊藤医院

Department of Social and Preventive Epidemiology

【目的】 平戸度島での疫学調査で、島民の食事に含まれる脂肪酸、ビタミン D(VD)摂取とマイボーム腺機能不全(MGD)罹患との関係について検討を行った。

【方法】 対象は、20 歳から 92 歳まで(平均 62±16 歳)の島民 300 名(男性 109 名、女性 191 名)。簡易型自記式食事歴法質問票を用いて、エネルギー調整済みオレイン酸、リノール酸、リノレン酸、アラキドン酸、エイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)と VD 摂取量を推定、MGD ワーキンググループの診断基準に従い MGD を診断した。MGD 罹患に対する脂肪酸と VD 摂取量に関して Logistic 回帰分析を用いてオッズ比を推定した。

【結果】 平均摂取量は、オレイン酸 16381±4099 mg/日、リノール酸 9370±2330 mg/日、リノレン酸 1531±435 mg/日、アラキドン酸 162±52 mg/日、EPA332±274 mg/日、DHA553±404 mg/日、VD15±12 μg/日であった。MGD は 300 名中 106 名 (35%)であった。五分位層別で摂取量最多群と最少群との調整後オッズ比 (95%CI)(年齢、性別、Body mass index、全身疾患有無、飲酒有無で調整)は、オレイン酸 0.40 (0.17, 0.97)、リノール酸 0.63 (0.27, 1.49)、リノレン酸 0.62 (0.27, 1.43)、アラキドン酸 1.00 (0.44, 2.25)、EPA 0.68 (0.31, 1.50)、DHA 0.61 (0.28, 1.37)、VD 0.38 (0.17, 0.87)であった。

【結論】 平戸度島において、食事からの栄養素と MGD に関して、高オレイン酸、高 VD 摂取により MGD 罹患率が低くなる可能性が示唆された。

学会サイトで 599/600 文字

利益相反 福岡詩麻、溝口尚則、川島素子、森重直行 なし

高 静花 FIV (SEED)

白川理香 F III (ニコンヘルスケアジャパン)

鈴木崇 F IV (メニコン、HOYA、日本アルコン)

児林聡美 佐々木敏 なし

有田玲子 有 (【P】、【C II】 興和、日本ルミナス)

残差法によりエネルギー調整

BDHQ (簡易型自記式食事歴法質問票 : brief-type self-administered diet history questionnaire)

年齢、性別、Body mass index (BMI)、全身疾患の有無、飲酒有無